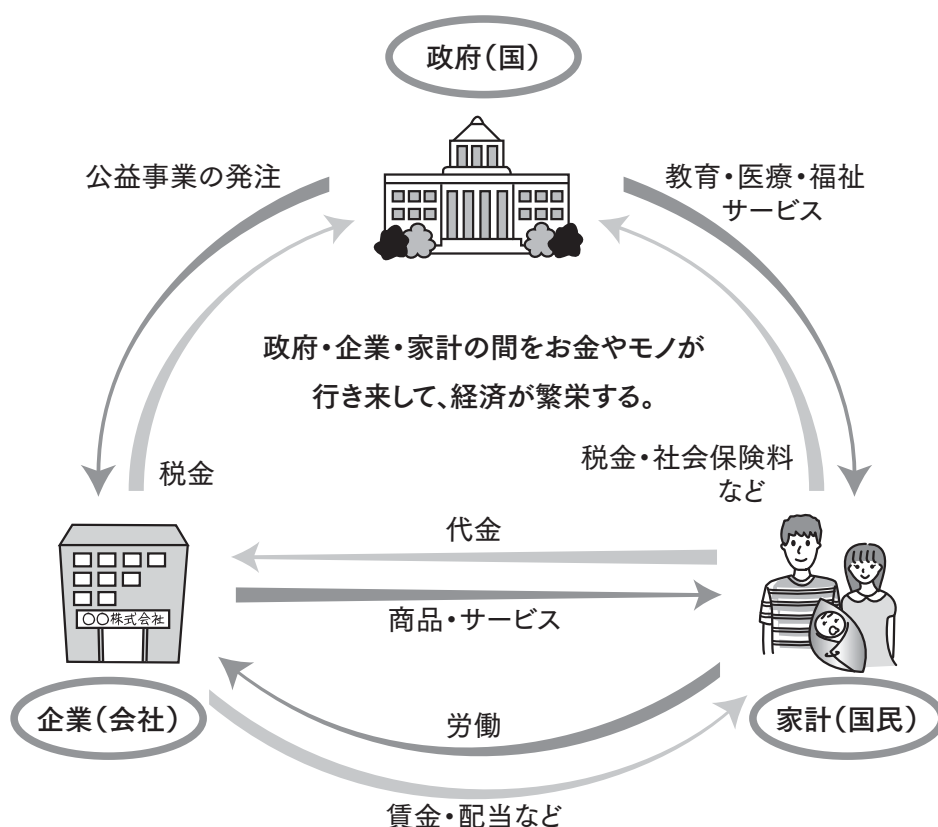


1-1 経済のしくみ

経済とは「お金」、「モノ」、「サービス」の流れのことです。経済主体と呼ばれる政府、企業、家計（国民）の三者間で行われます。国民一人一人は、このしくみの中で、働いてお金を得、消費者としてモノやサービスを買っています。企業は国民にモノやサービスを売って利益をあげ、その一部を政府に税金として納めます。政府は集めた税金や社会保険料を元手に道路や下水道などのインフラ整備を行い、教育や福祉など安全で快適な国民生活の向上に努めています。企業に公共事業を発注してモノやサービスを買う一方で、補助金や貸付などで企業活動や産業の発展にお金を使うこともあります。



- ▶ 経済とは、財（モノ）・サービスを交換する仕組み
- ▶ 経済活動は、お金を媒介してモノやサービスが交換されていく活動
- ▶ 企業がモノやサービスを生産し、家計（個人）がそれらを消費するといった、生産と消費の循環活動を円滑にしているのが、お金である
- ▶ 買い手（需要）と売り手（供給）が出会いモノやサービスを交換する場が市場である





身の回りにおける経済活動にはどのようなものがありますか。
具体的に書いてみましょう。

経済主体	経済活動の内容

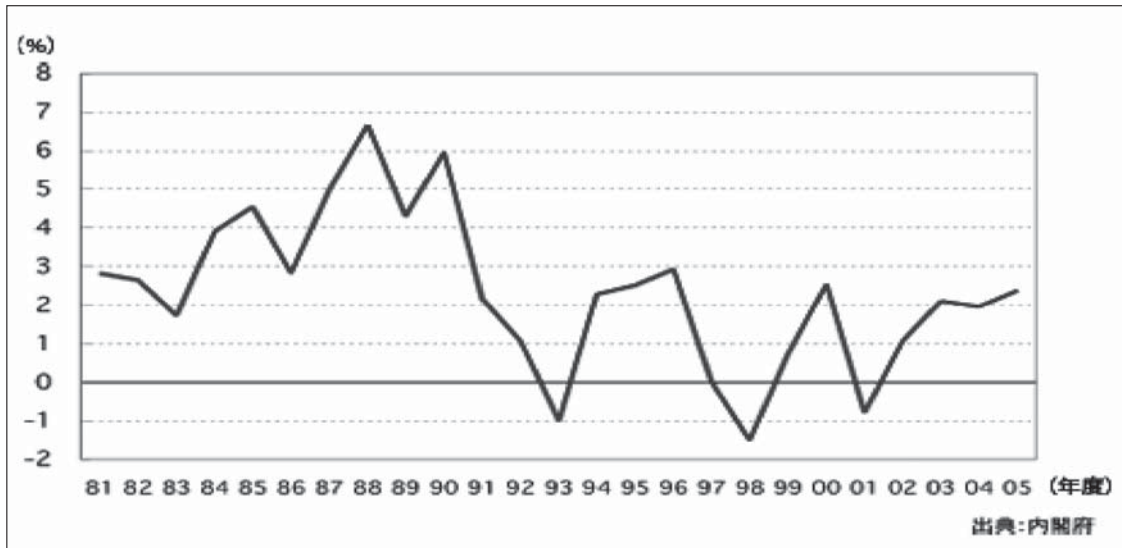
1-2 GDP

GDP（Gross Domestic Product：国内総生産）とは、日本の国内で、1年間に新しく生みだされたモノやサービスの付加価値の総額で、世界の国々がどのくらいの経済力を持っているかを表す方法であると同時に、その国の経済の見通しをはかる目安として利用されます。

また、経済成長率はGDPが1年間でどのくらい伸びたかを表わすもので、経済が好調なときはGDPの成長率は高くなり、逆に不調なときは低くなります。GDPが増え、経済成長率が高まることは、その国の景気が良いことを示します。

GDPのほかに、GNP（Gross National Product：国民総生産）があります。GNPは、“国民の総生産額”になるので、その国の企業や国民が海外で生産したモノやサービスの金額も加わります。

◆日本の実質GDP成長率◆



【付加価値】

付加価値額とは、簡単に言うと一定期間内の売上（生産高）から原材料費を差し引いた額となります。国内の付加価値を単純に合計したものを名目GDPといいます。名目GDPは物価が変動すると、正確に生産量を表さなくなります。そこでGDPデフレーターを用いて実質GDPを算出します。GDPデフレーターとは、名目GDPから物価変動の影響を取り除いて実質GDPを算出するために使われる物価指数です。

実質GDPが前年度の比べてどの程度上昇したのかを表したものを経済成長率といいます。

GDP（国内総生産） = その国の**経済の力**をあらわす**モノサシ**

付加価値額 = **商品の価格** - **原材料費**・**部品**などの**費用**

実質GDP = **名目GDP** × **物価指数**（GDPデフレーター）

